

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/01/10号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

年初から長期金利が上昇

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



2022年の第一週は今年を象徴するような動きで始まりました。長期金利の上昇です。1.53%で始まった米10年金利は、3日のニューヨーク市場のオープンから上昇の一途をたどり、金曜日には一時1.799%とほぼ1.8%まで上昇、1.76%で一週間を終えました。12月のFOMC議事録の内容が雇用マーケットでの人出不足、そしてインフレ進行から、想定よりも早い金利上げ、そしてFRBの抱える資産の縮小を急がなければならない可能性を示唆。予想以上のタカ派的な内容であったことから、金利の上昇に拍車がかかりました。この長期金利のレベルは2020年1月以来でほぼ2年ぶりの長期金利の高さとなりました。その割にはゴールドは1800ドルを少し割り込んだだけで、この長期金利の上昇にしてはまだ堅調な印象を受けます。ちなみにその2020年1月時点でのゴールド価格は1550ドル台でした。そしてそこから長期金利はパンデミックに対する不安からの逃避資金で米国債が大きく買われたことにより長期金利は下落、8月には0.52%まで下げ、ゴールドは歴史的高値である2060ドルまで上昇しました。この年初からの長期金利の上昇に、金融市場には緊張感が広がっています。日経平均は大きく下げ、米国の株式市場も特にNasdaqのハイテク株が値を崩しており、その影響もあってか暗号資産も大きく下げています。そして金曜日には雇用統計の発表がありました。NFP（非農業部門雇用者数）市場予想の40万人増に対して、発表されたのが19.9万人と半分以下の悪い数字となりました。ゴールドはそれにより10ドルちょっと上がりましたが、11月までであればおそらく楽に1800ドルを回復すべき数字です。これまで何度か書いてきたようにマーケットの関心は「雇用」から「インフレ」にシフトしているようです。今後出てくるインフレの経済指標に注目です。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

Loco London gold market

世界の金価格の形成の最も根源にあるのがこの「ロコ・ロンドン・ゴールド価格」です。一般的に「ドル建て金価格」というとき、このロコ・ロンドン価格を指しています。(Comexの先物価格も全く同じ表示なので、少々ややこしいですが、それはのちほど解説します。)ロコロンドンゴールド価格とは、ロンドンで受け渡しされる(実際にはアカウントの付け替え)条件の1トロイオンス(troy ounce=toz=31.1035グラム、貴金属にだけ使われる単位でオンスといわれるときもあるが、本来のオンスとは単位が違います。)当たりの米ドル建ての価格です。新聞などで、ゴールドが2000ドルを超えた、という表現があるときは、1トロイオンスあたりの米ドル価格です。つまり、1オンスのゴールドと2000ドルを交換する、ドルとゴールドの交換レート、つまり為替だということができます。その仕組みはドル円やドルユーロなどの外国為替と全く同じです。海外では銀行などの金融機関がゴールドのトレーディングを為替のデスクで行っているのが普通です。ドル建てゴールドはゴールドとドルの為替であるからです。ドル円の為替は、ドルはニューヨークにある銀行での受け渡し(記帳上の付け替え)となり、円は東京にある銀行での受け渡しとなりますが、ゴールドは国籍がありません。しかし、その歴史的な経緯から、ゴールドの受け渡しはロンドンにある銀行で行われることになっています。そのためロコ・ロンドンと呼ばれます。「ロコ」はラテン語で場所を表す接頭辞であるとか、英語のLocalの略語だとか言われる説がありますが、受け渡し場所を示す言葉として貴金属取引では使われています。例えば東京渡しの場合は「ロコ東京」という具合です。そしてその「スポット価格」とは、二営業日後決済(ドルはニューヨークで、ゴールドはロンドンで付け替えが行われる日)の取引のことです。つまり今売買すれば二営業後にその取引による受け払いがなされるということです。このロコ・ロンドン・ゴールド価格は、ドル円の為替と全く同じくほぼ24時間、銀行間の相対取引(OTC取引)として取引されています。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレージャー)をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することによるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

